

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100611		
法人名	足羽福祉会		
事業所名	愛全園グループホーム		
所在地	福井市丸山町40-7		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 9 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 9 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症によって自立した生活が困難になっても、人としての尊厳・人格を尊重し、家庭的な雰囲気の中で生活を営むことができるよう支援している。現在はコロナ禍で、同施設内の特養、デイサービス、ショートステイとの関わりや、地域との関わり、ボランティアの受け入れは出来ていないが、朝食の選択食(主食)や、毎月出前を取るなど食事の充実に努め、サービスの改善、向上を絶えず行っている。また、利用者様の有する能力に応じ自立した生活が送れるように科学的介護を実践し、自立支援、介護度の改善に向けても取り組んでいる。

母体法人・併設施設・事業所それぞれに理念を掲げるとともに、サービス提供指針も作成し職員は出勤の際に唱和して意識を持ち、実践に繋げている。事業所理念は4項目あり、1番目に「3秒待つ」を謳い利用者の尊厳や自己決定の支援に取り組んでいる。人事評価制度にバリュー評価を取り入れ、職員自身が方向性を見出すために目標を掲げ、毎月振り返りを行って管理者からも意見を得ている。また、事業所隣に地域交流センターを開設し、地域住民の交流やボランティア団体等への連絡・育成のために地域専門員を置き、福祉の発信や地域貢献を目指している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所で決めたサービス提供指針、スローガンを毎日唱和している。また、「理念」の内容と、「従事者倫理」が、「職員行動指針」に変わり、福祉専門家として共に歩んでいく内容に、見直されているため共有することにつとめた。	母体法人・併設施設・事業所の理念や指針を掲げ、出勤の際に唱和し意識づけをし実践に繋げている。バリュー評価を取り入れ毎月の振り返りのほかに、年2回管理者と面談し、個々の研鑽に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は、園の行事に招いたり、地域に出向くなど活動に参加をしていたが、今年度はコロナ禍の影響で、実施できていない。	地域交流に積極的であったが、コロナ禍で難しい状態である。今年度は公民館の門松づくりに参加しミニ門松を作った。併設施設内にある地域交流センターには専門員を配置し、地域貢献を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年までは地域高齢者に呼びかけ「喫茶あいあい」を行ったり、年に1回、居宅部の一員として「愛deつながる会」の企画、運営に参加し、地域の人を招いて、食事を作ったり介護相談を受けたりしていたが、今年度はコロナ禍の影響で、実施できていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1度実施してきたが、コロナ禍の影響で中止したこともあった、その際には状況報告書と一緒に、アンケートも送付している。	今年度は2回開催し、新型コロナウイルス感染症の影響で開催できない月にはアンケートを送付した。寄せられた意見は実践し、結果を次回の会議で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターとも地域に関わる方法など相談・アドバイスを受けている。	平成29年度より地域包括支援センターが併設され、連携がさらに良くなった。コロナ禍でも市との連絡・相談は円滑に行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園内の身体拘束廃止委員会で高拘束状況の検証を行っている。また家族には身体拘束廃止の承諾書を取っている。現在は拘束の必要のある利用者様はいない。	身体拘束廃止委員会に毎月参加の他、2か月毎に母体法人で委員会を開催、アンケート実施を通じ日常生活にみられる拘束等について、正しい理解に努めている。エレベーターは夜間早朝以外は自由に利用できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会で勉強会(アンケート)などを実施している。ミーティング等で検証も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様が入居されているが、学ぶ機会は法人内の職員同士から情報を得るようにしている。日常生活自立支援に関しては、包括センターに情報をもらうなどして学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今回は対象者いないが、必要に応じて相談や支援に努めたいと思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会などはリモートで実施しているため、電話連絡の際や2回アンケートを実施している際に要望や意見などを聞いている。	リモートで月2回面会に加え、通院や日常的な連絡の際に電話で意見要望を聞き入れている。外出できないため筋力低下への不安の声などもアンケートで寄せられ、対応している。	毎月の個々の利用者の状態を電話で報告しているが、家族のさらなる安心のため、状況報告書等書面でも報告することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員との面談でやミーティングの際に意見や提案・不安を聴くようにしている。同時に検討も行っている。	バリュー評価を取り入れ、自身を表現し活かす方向性を見出す取り組みで、年2回の面談の際には運営に関することも聞き入れている。普段は気づきを付箋に書き込みボードに貼り、ミーティングで話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で人事評価制度を導入している。年に1度人事意向調査を実施している。各職員との面談で意見、要望、不安などを聴くようにしている。その都度声掛けも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年までは年間を通して園内の研修計画で勉強会が実施していたが、コロナ禍で今年度は実施出来ていない。法人としてはリモートで研修を実施しており、参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年までは法人内での交流事業を実施してきたが、今年度はできていない。ただ、サービス質向上の取り組みについてはWEB会議にて検討している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に伴い、事前調査、関係事業所からの情報を重視している。入居後は本人様に安心できるように思いを聴いたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話やアンケートなどで要望や不安などを聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自事業所のサービスだけではなく、他のサービスも提案として行っている。介護保険外の福祉用具などほかのサービス利用も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の暮らしの場・第2の家である事を意識するようにしている。事業所のスローガンを唱和している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が通院の協力をしている時期もあったが、現在は施設職員が付き添いを行っている。オムツや日用品などは家族に依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではあるが、月2回のリモートの面会を実施している。また利用者様から家族への年賀状を送っている。	コロナ禍でリモートでの面会、外出も自粛の状態であるが、馴染みの関係が途切れないよう支援し、年賀状送付後は家族から喜びの声があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のアセスメントは随時行っている。雰囲気が悪くなった際には職員が関わりを持って和やかな雰囲気になるように工夫した支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今回は対象者いないが、必要に応じて相談や支援に努めたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのかかわりを持ち個々の希望や意向を聴き、アセスメントを行い、ケア内容を検討している。	日々利用者に寄り添い、会話の中で食べ物への要望が多く、毎月出前を取るようになった。表現できない利用者は体をさすり安心した状態で声を掛け、表情で思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談で、家族やケアマネジャーからの情報を収集し、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態を申し送りや日誌等に記録し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングを参考にチームで話し合い職員間の意見を取り入れたケアプランを作成している。6か月毎の計画書や担当者会議で検討を行うが現在コロナ禍の為、担当者会議は実施出来ていない。	介護ソフトを2000年より導入し、職員は操作を理解し介護計画に沿って毎日記録している。毎月の評価・6か月ごとの見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、日誌、申し送り等を参考に計画書の見直しに努めている。多職種や他職員に意見やアドバイスを聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に応じて受診や行事等を行っている。コロナ禍のため、行事などは実施できていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同法人の包括センター、居宅ケアマネ、地域支援センターまた、啓蒙公民館の協力を得ながら地域資源の情報を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続と希望に応じた病院への対応、家族の付き添いをお願いしている。その際には書面などで連携をとっているが現在はコロナ禍の影響で、現在は職員が付き添いを行い、受診後に家族に電話報告を行っている。	かかりつけ医の継続を支援し、現在は看護師・介護職員・ヘルパーが通院同行している。その際に身体状況報告書を持参し、医師と連携して支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師と協働している。病院との連携や医療面では看護師に依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段の定期受診の時から書面での連携は行っている。入院時は情報を書面で伝えている。退院前カンファにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族に確認を行っているが事業所としては終末まで過ごしてもらうようにしている。	今年度、かかりつけ医の往診や看護師と24時間オンコールの対応で職員が連携して支援し看取りを行った。この取り組みに家族も安心できた。看取り後に振り返り書を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園内での勉強会で緊急時対応の勉強会はある。急変時マニュアルも確認できる場所に掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として避難訓練を実施している。昨年度は地域と連携して訓練も実施している。	併設施設と合同で夜間想定も含め年2回避難訓練を開催し、消防署に報告している。福祉避難所に指定され、備蓄品を準備し防災委員会も開催し災害対策を強化している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス提供指針、理念、スローガンの唱和を行っている。利用者様には〇〇様と人生の先輩として敬う接し方を統一できるように取り組んでいる。また、接遇にも重点的に取り組み人としての尊重を形から行っている。	事業所の理念4項目の1番目に「3秒待つ」を謳い、利用者の自己決定や尊厳を大切にしている。接遇委員会があり、個人情報書類も大切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から利用者様の思いを伝えたい時には受容できるようにしている。本人様が声掛けで自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側からの活動を強要することなく、本人様に説明し、意思を確認し、活動に参加したり、作業をしてもらっている。利用者様中心に生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	性格、生活歴などから、本人様の好みに合わせたり本人様に選んでもらったりとおしゃれの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時には今まで使用している茶碗や箸、お碗や湯呑を家から持参してもらい、日々の食事で使用している。毎月1回利用者様の要望を聞きながら出前などを行っている。	コロナ過で職員が配膳しているが、テーブル拭きや片付けは利用者が手伝っている。嫌いな料理の代替えは可能で、月1回の出前やおやつ作り、朝食のパンや自家菜園の一品も利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量1500cal、水分量は概ね1日1500cc以上を目安に提供している。状態により医師・看護師と相談し、個別で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕は口腔ケア実施しているが昼は実施出来ていない。口腔ケアは声掛けや見守りを行い、不十分な所を介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1名のみオムツ使用。個別に排泄パターン把握出来ており、自立に向けた支援を行っている。出来るだけ下剤などは使用せずにトイレで自然排便出来るようにしている。	排泄パターンを把握し、現在オムツ利用者はいない。要介護5の利用者もリフト付きポータブルトイレを利用し個々の自立を支援している。自然排便に工夫し、対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳酸菌飲料を提供や、個別で食物繊維の粉末を飲み物に混ぜて提供している。水分量などの調整もその都度、医師、看護師と連携しながら便秘予防の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や希望にそって午前・午後などの入浴を実施している。また好みの温度にも気をつけながら実施している。季節感を感じてもらうために入浴剤なども使用する工夫も行っている。	週2回以上、日曜日以外は入浴できる。着替えの準備から始まり、ゆっくりと職員との会話を楽しみながら入浴している。車椅子の利用者は1階のデイサービスセンターにて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別にアセスメントを行い、安眠、休息できるように支援している。表情なども見て疲れた様子が見られた際や希望があった際には随時休んでもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の処方箋を綴り確認できるようにしている。服薬マニュアルを活用し、誤薬、飲み忘れの防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職歴や得意だった事を生かしてその人にあった役割等を提供し支援している。外出が難しいため朝食選択(主食)を行ったり、嗜好品として出前を月1回とるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の影響のため、外出は行っていない。	行事計画は作成しているが、コロナ禍で外出は難しい。廊下をリハビリを兼ねて歩いたり、気候の良い日には屋上にて四季を感触を楽しみ気分転換し、花火も鑑賞している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度のお金を持参されている方がおられる。紛失などの危険も考えながら職員が確認も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望がある際には随時電話をするなどの対応をしている。年末には、家族への年賀状も書いてもっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて空間の展示品をかえるなどして、季節感を出している。本人様が居心地よく生活できるように随時検討している。	リビングは窓が大きく明るい。ソファを所々に置き、畳の間に休憩や洗濯たたみ等ができて、利用者同士の触れ合う空間がある。金魚・メダカの水槽があり餌やりも利用者が行っている。動画・写真で確認した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル4つ、和室が1つ、廊下に長椅子、ソファが置いてあり、要望に合わせて過ごすように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様、家族の要望を優先し、心地良く過ごせるように家族と共に環境整備している。	タンス・ベット・洗面所・エアコンが設置され、自由に物を持ち込むことが出来る。テレビ・家族写真・椅子・雑誌・新聞・家族の手作り作品等を飾っていることを動画・写真で確認した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様に応じて安全に自立した生活が送れるような家具の配置している。福祉用具の置き場も随時検討し安全な環境作りをこころがけている。		